

平成 20 年度 社会調査実習Eクラス

地方都市復権の可能性を探る

千葉県木更津市の当事者機関への

ヒアリングと住民調査から

序 章:	調査の概要と基本属性	...241
第 1 章:	『木更津キャッツアイ』による影響	...253
第 2 章:	駅周辺市街地の商業面から見た活性化	...265
第 3 章:	地域情報の流通とコミュニケーション	...279
第 4 章:	木更津市の安心・安全確保への取り組み	...290
第 5 章:	[提言] 人と人との繋がりを深めるために	...303
終 章:	調査を終えて	...304
資 料:	質問紙調査票	...305

担当教員 浅岡隆裕

報告書発刊に当たっての緒言

浅岡隆裕¹

今年度の社会調査実習のテーマは特定の中心的なテーマを先に定めて、それに合わせて対象地域を設定するという方法をとらずに、まずグループごとに問題意識を抽出し、その課題設定に当てはまるような場所を探すという手順とした。そのような理由から特定地域社会を総合的に研究するといった色彩が強いものとなった。結果的にだが、多くの問題状況を複合的に抱える地方都市に的が絞られ、いくつかの候補地のうちで、条件が当てはまった木更津市で調査を行うこととした。

一部の大都市への集住傾向がより一層顕著となり、地方都市は全国的にみると、衰退の一途を辿っている。もちろん例外もあるが、それらは恵まれたごく少数の事例であり、マクロトレンドでみれば凋落傾向に一時的に歯止めが掛かっているだけとみることができる。今後どのように推移していくのかは予断を許さない状況であるといえるだろう。

本調査では、「地方都市の復権」ということをメインタイトルとして掲げたが、復権 地域活性化に向け、いくつかの切り口で調査と考察を進めた。木更津市もかつては上総の拠点として繁栄した歴史をもち、今でも千葉県の中心的な市である。しかし地域の活性化は待ったなしの状況であることは全国的な諸動向の例外ではない。また木更津市では『木更津キャッツアイ』というドラマの舞台となり、全国的な知名度を得ている。その効果の検証ということは本調査の一つの接近視角ではあるが、本文を見て頂くと分かるとおり、その効果が出ているとは言い難い状況にある。

調査全体を通した所感としては、復権の可能性については、今回とくに好材料が見つからないことから、やや悲観的な見解に立たざるを得ない。現実的な解としては、完全な復権はもはや困難であると考えたときに、活性化という考えそのものを問わなくてはならなくなってきているのではないかと感じた。活性化については多くの場合、商業面がクローズアップされるが、それとは別の側面、たとえば(暮らしやすい)(安心・安全)(住民同士の交流が活発)といった街づくりを目指すという方向性も考えられよう。いずれにしても住民本位のまちづくりをどのように進めるのか、その手法が真剣に問われてくると言えよう。木更津は日本の地方都市の典型であり、その問題状況はとりもなおさず日本の縮図をみることもできよう。その復権に向けた取り組みは、他都市にもある程度応用可能であるに違いない。

調査結果と提言を一旦木更津市へお出しして、今後の展開を見守っていきたいと思う。

本報告書が木更津市への今後の発展に向けて少しでも貢献できれば幸いである。

* * *

データの分析と原稿の執筆は、受講学生が行い、担当教員とスタッフ²がそれぞれチェックして、至らない部分は修正を求め、数回の書き直しの後にここに上梓することとした。かなりごつごつとした粗削りの感は否めないものの、ここに披露して、各位の批評を受けたいと思う。

末筆になるが、紙面の都合上ここで名前を列挙させて頂くことはできないが、ヒアリング対象としてご協力頂いた各機関、諸団体の方々に対しては、深く御礼申し上げたい。ありがとうございました。

¹ 本学文学部講師。社会学・メディア研究、asaoka@ris.ac.jp。

² 文学部講師の松本憲始先生と大学院修士課程の岡本真菜さんにご協力頂いた。